

みる かたる つくる

2015 VOL.42
(通巻104号)



ART NEWS
千葉県立美術館報

千葉県文化財保護条例制定60周年記念

特別展 香取神宮 — 神に奉げた美 —

「古瀬戸黄釉狛犬」(香取神宮蔵)



香取神宮
楼門



「海獣葡萄鏡」(香取神宮蔵)

開催概要

会 期 / 平成27年11月17日(火)～平成28年1月17日(日)
開館時間 / 午前9時～午後4時30分
(11月17日(火)のみ午前10時30分開場)
休 館 日 / 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日)
年末年始(12月28日～1月4日)
入 場 料 / 一般800円(640円) 高校・大学生400円(320円)
中学生以下・65歳以上は無料
()は20名以上の団体料金

展覧会概要

関 東を代表する古社・香取神宮は、古来から鹿島神宮と並び“神宮”の社号をもつ東国の守護神として、広く信仰を集めてきました。

国宝「海獣葡萄鏡」や重要文化財「古瀬戸黄釉狛犬」などをはじめ、県指定文化財を含めて、数多くの文化財を所蔵し、境内には、重要文化財の本殿と楼門、県指定有形文化財の旧拝殿、国登録有形文化財の拝殿など、多くの歴史的建造物が遺されており、まさに文化財の宝庫です。

本展覧会では、時代を超えて受け継がれてきた国宝や重要文化財、県指定文化財のほか、これまで紹介されることのなかった近代美術の数々を一堂に展示し、“神に

奉げた美”を紹介します。

また、東日本大震災は、千葉県内にも大きな被害をもたらした、香取神宮にもその爪痕を残しました。香取神宮は、いち早くその復旧に取り組み、本殿と拝殿の屋根修復事業を終了し、平成26年には12年に一度の式年神幸祭が行われたところでした。これに関連し、被災からの復興と再生をテーマに、香取市被災文化財写真展を行います。

さらに平成27年は、昭和30年に千葉県文化財保護条例が制定されてから60年目の年に当たります。香取神宮が所蔵する国指定や県指定文化財の展示を通じて、文化財保護に関する県民の理解と関心を深め、後世に伝える大切さを再認識する機会にもしたいと考えています。

千葉県文化財保護条例制定60周年記念 特別展 香取神宮 —神に奉げた美—

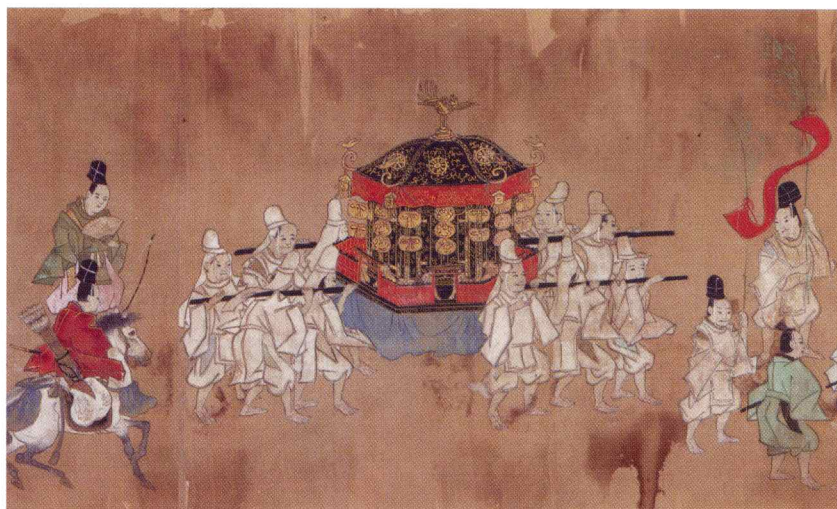
第1部「香取神宮の歴史と信仰」では、香取大禰宜家文書（重要文化財）、香取分飯司家文書（県指定文化財）や香取市吉原三王遺跡出土墨書土器（県指定文化財）などを展示し、歴史的な背景をさぐります。

第2部「《香取神宮神幸祭絵巻》の美」では、現在12年に一度行われている式年神幸祭のかつての姿を描いた香取神宮神幸祭絵巻を紹介しつゝ、この絵巻は、室町時代の永正年間に描かれたものを書き写した絵巻が6本残っており、これらを集めて展示するのは今回が初めてです。絵巻には、利根川沿いの津宮に向かって、御船木を先頭に神馬、大禰宜、神主隋兵、物忌、神輿、獅子などが華やかに行列する様子が描かれています。最後には、鳳凰が飾られた正殿があり、かつての香取神宮の姿と繁栄を彷彿とさせます。それぞれの書写本は、描写が少しずつ異なっており、その描きわけも必見です。

第3部「神を彩る名宝」では、国宝である海獣葡萄鏡をはじめ、重要文化財の双竜鏡、古瀬戸黄釉狛犬や、県指定文化財の香取神宮古神宝類など、香取神宮所蔵の宝物を展示します。また、観福寺所蔵の銅造十

一面観音坐像他（重要文化財）や莊嚴寺所蔵の木造十一面観音立像（重要文化財）といった香取神宮関係の名宝を一室に展示します。

第4部「奉納された近代美術」では、香取秀真の獅子牡丹文花瓶や香取正彦の銅日月文壺、橋本雅邦の梅、松岡映丘の騎乗人図、小幡春生の岩戸開等、これまで紹介されることが少なかった香取神宮に奉納された近代美術を展示します。



香取神宮神幸祭絵巻（國學院大學蔵）神輿部分

関連事業のご案内

美術講演会 ①

「香取の神への信仰と祭り—古代・中世を中心に—」

講師／國學院大學教授 笹生 衛氏

日時／平成27年12月19日(土) 13:30～15:00

会場／講堂 定員／200名

聴講無料／当日受付(先着順)

美術講演会 ②

「香取神宮伝来、国宝・海獣葡萄鏡の魅力と謎」

講師／奈良国立博物館列品室長 吉澤 悟氏

日時／平成28年1月16日(土) 13:30～15:00

会場／講堂 定員／200名

聴講無料／当日受付(先着順)

香取神宮ゆかりの演武

県指定無形文化財「天真正伝香取神道流」

日時／平成27年11月22日(日) 13:30～

会場／第7展示室

見学無料／当日受付

KATORI special days—もっと香取が好きになる

日時／平成27年12月19日(土)、20日(日)

香取市産品の販売やミニコンサート、ワークショップなどを予定しています。詳細は決定次第、当館ホームページなどでお知らせします。

ミュージアムコンサート

「新春雅楽演奏会」

日時／平成28年1月9日(土) 開場13:00 開演13:30

演奏／公益社団法人北之台雅楽アンサンブル

特別出演／元宮内庁楽部首席楽長 安齋省吾氏

会場／講堂 定員／200名

申込方法／往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記のうえ、千葉県立美術館宛にお申し込みください。はがき1通につき、最大2名まで記入可。※応募多数の場合は抽選。

申込締切／12月3日(木) 必着

参加料無料

ギャラリートーク

毎週第2・4土曜日 13:30～14:00

参加料無料 (要入場料)

同時開催

●香取市被災文化財写真展 第7展示室

●草月流いけばな —「香取神宮」展に寄せて—

レポート ▶ アート・コレクション こどものための展覧会「この夏限定!不思議の森美術館」

7月4日(土)～8月16日(日)

今 年度のこどものための展覧会では、こども達が本物の美術作品に囲まれた空間で、「みて」「かたつて」「つくって」楽しみながら活動できる展覧会を実施しました。「みて」に関しては、収蔵作品の中から「不思議」を感じることができる作品29点を厳選し、「不思議な森の入口」、「不思議な森に住む不思議な人や生き物」、「不思議な森の不思議な町」、「不思議な森の不思議な光景」、「不思議な森の不思議な文字」、「不思議な森の不思議な形」という6つのテーマを設定して展示を行いました。会場内に展示してあるすべての作品情報や「問いかけの一言」を記載して、こどもと保護者、またはこども同士で感想等を語り合いながら作品を鑑賞できるように心配りしつつ、会場内で作品探しゲームを楽しむことができる「不思議なうわさで作品探し」のコーナーや、「今日のラッキー作品おみくじ」を設置し、体験を通して作品について語り合えるように配慮しました。「つくって」については、「不思議な町」のゾーンで、「ビルダーカードで不思議な町をつくろう!」というテーマで、全身を使ったダイナミックな創作体験を楽しむことができるコーナーを設置するとともに、「お花紙で花の国を作ろう」というコーナーや「スーパー書道で不思議な文字をつくろう」という体験コーナーを設置し、そのコーナーに展示されている作品と関連した創作活動を楽しめるように工夫しました。また、彫刻家・木村賢太郎の作品を触ることができるコーナーも設けて、たくさんの体験活動ができるような展示構成としました。



展示室の様子

ワークショップ

*8月1日(土)

段ボールでできた型に、色とりどりの段ボールを好きな色・形に切って貼り付けて、「不思議の森美術館」で着てみたい冒険服を作るワークショップ。展示室で展覧会を鑑賞した後、制作を行うアトリエへ大移動。こども達にとって、美術館を歩き回る貴重な機会となりました。



これからのアート・コレクション

■版画—メゾチント

1月23日(土)～3月6日(日)

銅版に細かい無数の掻き傷を付け、それを削ったりつづしたりすることで、柔らかい明暗の調子を作り出す「メゾチント」の技法。この技法で特に評価の高い浜口陽三の作品を中心に、メゾチントの魅力をお楽しみいただきます。

■バルビゾン派とフォンタネージ 1月23日(土)～3月6日(日)

大自然と、そこに生きる人々を題材にした、ミレーやルソーなど「バルビゾン派」と呼ばれる画家たちの作品と、バルビゾン派の影響を受けた、浅井忠の師・アントニオ・フォンタネージの作品を紹介いたします。

■房総と近代美術

1月23日(土)～4月10日(日)

千葉県に関係する美術家の作品を中心に、県立美術館の代表的なコレクションを紹介します。また、「浅井忠コーナー」を併設し、千葉県ゆかりの近代洋画の先駆者・浅井忠に関するより詳しい展示を行います。

■彫刻

2月16日(火)～4月17日(日)

収蔵作品の中から彫刻に注目し、石や木など、様々な素材を生かして表現された立体表現の魅力を知っていただく機会とします。

■作品の中の金と銀

3月12日(土)～4月17日(日)

金や銀は古くから、美術作品の材料として活用されてきました。ここでは、金や銀を用いて制作された作品をご覧ください。

■春

3月12日(土)～4月17日(日)

春と言えば桜。桜は最も親しまれてきた花として、詩歌や美術で扱われてきました。ここでは、桜をモチーフにした作品の様々な表現をご覧ください。

レポート 実技講座

「みる・かたる・つくる」の「つくる」活動の一環として、県内作家を講師として受講者の生涯学習に寄与すること、美術鑑賞の目を養うことを目的に始まった実技講座も、今年で37年目を迎えます。10月までに3講座を実施しました。受講者の制作した作品の展示も予定しています。



陶芸基礎

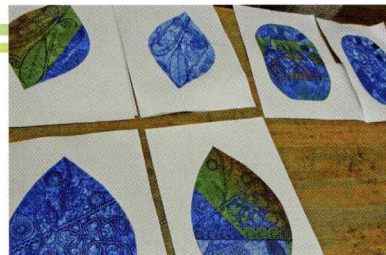
6月～7月

マグカップを板作り、茶碗を紐作りで制作。花器は思い思いの形に。約10種の中から選んで釉がけし個性豊かな作品ができあがり、鈴木先生の丁寧な指導で充実感あふれる講座となりました。

コラグラフ

7月

葉・ひもなど身近な材料で版を構成し、手軽に細密な版画表現ができるコラグラフ。上田先生のグラデーションなどの洗練の技を目の当たりにしながら楽しく作品作りが進み満足度の高い講座でした。



篆刻

8月

青田石で大小2顆ずつ、4顆の印を仕上げました。こだわりの一文字で陰刻・陽刻、2文字で陰刻・陽刻。黙々と熱心に取り組まれる方が多く、那須先生の熱心な個別指導で納得の作品ができました。

これからの実技講座予定

金工 11月3日～11月25日(全7日)

講師平山記通先生。銅板の鍛金で初心者はカップ、経験者は好みの容器などを作ります。じっくりと基礎を学び、叩いて形作る鍛金の楽しさを味わいます。

陶芸(応用) 12月2日～3月3日(全7日)

講師鈴木久美子先生。5kgの粘土で花器を作り、登り窯で焼きます。房総のむらで開催。

* 詳しくはホームページを御覧になるか普及課(043-242-8311)までお問い合わせください。

レポート ワークショップ

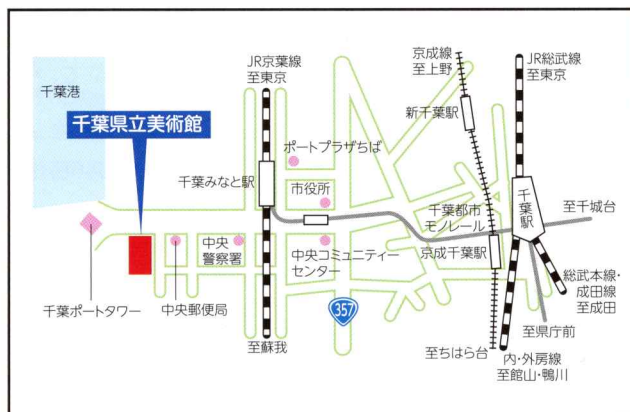
耐震補強等工事を終えて、今年度は美術館でのイベントが本格的に再開しました。アトリエのほか、展示室など美術館の様々な場所でワークショップを開催しました。



5月「たのしい日本画教室」



8月「いろいろ作ろう、美術館の縁日だよ!」



千葉県立美術館 〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
Tel.043-242-8311 Fax.043-241-7880

千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL.42 (通巻104号)
2015年10月25日発行